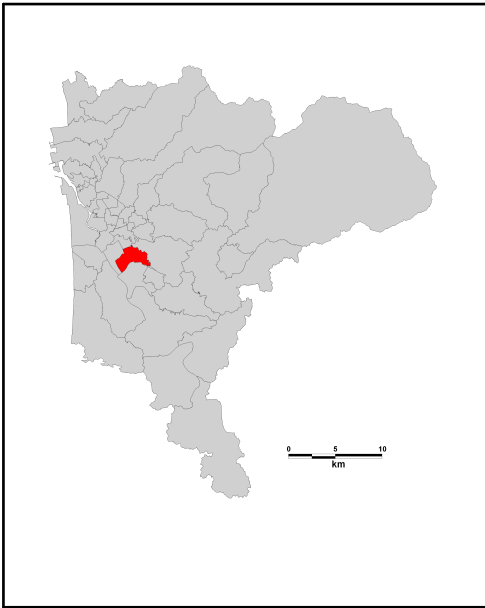
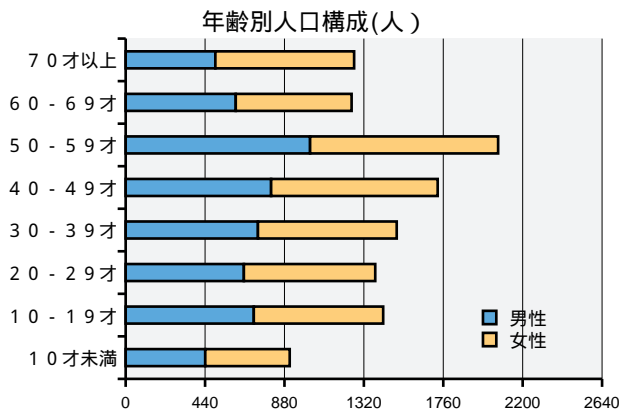


位置図



1 居住者の現況

人口(人)	11,532
世帯数(世帯)	4,306
65歳以上人口(人)	1,814
65歳以上世帯(世帯)	627
5歳未満人口(人)	405



2 建物に関する指標

構造別建物棟数(棟)

木造建物	4,010
非木造建物	459
合計	4,469

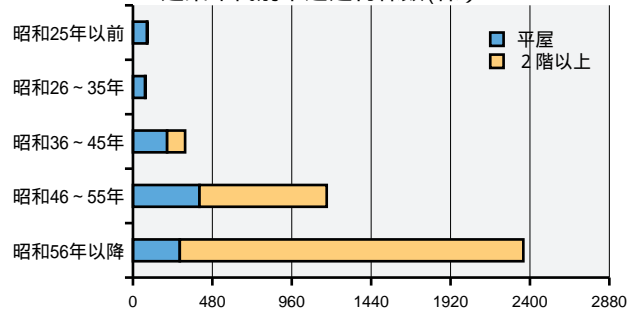
建築年代別木造建物棟数(棟)

建築年	平屋	2階以上
昭和56年以降	283	2,077
昭和46年～昭和55年	402	769
昭和36年～昭和45年	207	109
昭和26年～昭和35年	74	3
昭和25年以前	85	1

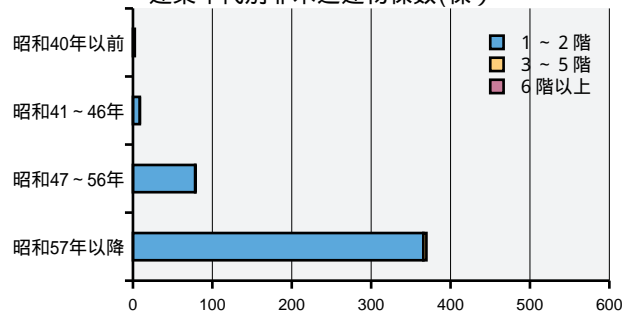
建築年代別非木造建物棟数(棟)

建築年	1～2階	3～5階	6階以上
昭和57年以降	366	4	0
昭和47年～昭和56年	78	0	0
昭和41年～昭和46年	9	0	0
昭和40年以前	2	0	0

建築年代別木造建物棟数(棟)



建築年代別非木造建物棟数(棟)



自然的・社会的基本指標

秋田市街地の猿田川と古川に挟まれた平坦な地域に位置している。地盤は沖積層が広く分布する。1983年日本海中部地震では、学校区の周辺で地盤の液状化が発生した。国道13号沿いを中心に区域の西半部に住宅地が集中して分布しており、その周辺は水田となっている。人口構成は10歳台～50歳台が占める割合が多く、65歳以上の高齢者層は、16%と割合が低いのが特徴である。昭和56年以降の建物は全体の61%と多い。

3 急傾斜地等の現況

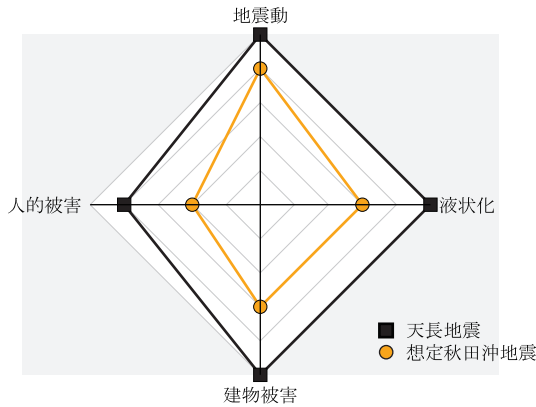
指定種別(箇所数)	箇所名
急傾斜地崩壊危険箇所(1)	猿田堤沢
なだれ危険箇所(0)	該当箇所なし
地すべり危険箇所(0)	該当箇所なし
土石流危険渓流(0)	該当箇所なし

4 地震被害に関する指標(地震被害想定結果)

■ 被害想定結果一覧表

	天長地震	想定秋田沖地震
平均震度	6 強	6 弱
液状化危険度	ランク 5	ランク 3
木造建物大破数(棟)	501	48
非木造建物大破数(棟)	41	5
死者数(人)	44	4

被害想定結果レーダーチャート



レーダーチャートの見方

このレーダーチャートは、地震被害想定調査の主要な結果に基づいて、各項目毎に最も危険度が低い場合を1、最も危険度が高い場合を5として点数化してグラフに表したものです。グラフのひし形の面積が広いほうが総合的な地域の危険度が高いことを示しています。

地震時危険要素

天長地震を想定した場合、平均震度が6 強となる。東部を中心に液状化する可能性がかなり高い。これに伴い、550棟以上の建物大破被害が発生し、死者も40人以上発生すると想定される。

想定秋田沖地震では、平均震度が6 弱となる。天長地震を想定した場合と比較して低くなる。建物大破被害は50棟程度の大破被害が発生する。死者が発生する可能性がある。

津波に対する危険要素

津波による浸水の危険性はないものと見られる。

5 防火・防災施設に関する指標

■ 消防関連施設

消火栓数(箇所)	108
防火水槽(箇所)	13
消防車台数(台)	4
消防ポンプ数(台)	1
消防団員数(人)	58

■ 避難所/避難場所

避難所/避難場所	屋内/屋外	収容人員(人)
仁井田小学校	屋内	337
御野場中学校	屋内	597
仁井田小学校グラウンド	屋外	6,500
御野場中学校グラウンド	屋外	6,250

■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	秋田南消防署
管轄警察署	秋田東警察署 秋田中央警察署
病院数	12
最寄の救急告示病院	秋田赤十字病院
自主防災組織数	38

■ 学校区内の主要な公共施設

施設名	住所
-	-

防災上の課題と対策

仁井田小学校区は、国道13号沿いを中心に市街地化が進んでいる。学校区東部は、水田等の農用地が広く分布している。1983年日本海中部地震では、大住小学校区との境界付近で地盤の液状化が発生しており、今後も大地震時に液状化が発生するおそれがある。学校区内を横断する国道13号および県道秋田御所野雄和線は緊急輸送道路であり、災害時の交通確保が必要である。その他一般車両などによる交通渋滞が発生することも考えられることから迂回路や迂回手段等について、検討しておく必要がある。学校区の東部については、近隣の学校区の避難所に避難したほうがよい場合も考えられる。防災対応力の高い若・中年層が多い。日頃から避難所、危険箇所の位置を住民に十分に広報するとともに、住民各自が災害時の心構えを常に持っていることが重要である。また、防災意識を啓発する意味からも防災訓練の有効活用を図って行かなければならない。